

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374100523		
法人名	特定非営利活動法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
事業所名	特定非営利活動法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
所在地	愛知県東海市養父町刈宿31番地1		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=tru&JigiyosyoCd=2374100523-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和1年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ここは、あなたの家ですよ」の理念で開設したグループホームも15年経ちました。地域の方に支えられ、地域との交流を大切に、共に生きるという想いをもって生活しております。ボランティアの方の訪問が多くあり、入居者様は楽しみになっています。、年4回の保育園児との交流は全員が笑顔で重心に帰って、楽しんでます。地域のお祭り、敬老会などに参加させてもらい楽しい時間を過ごしています。今後、入居者様の高齢化、介護の重度化に伴い介護の質と量が求められます。ご家族様と連携を取り、利用者様に快適に過ごしていただけるよう全員で取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

すぐ近くに知多市文化財に指定されている尾張八幡神社があり、事業所の前の道路を隔てて私鉄が走っているが騒音は少ない。伊勢湾に注ぐ小川と田畑、静かな住宅街の中に、2階建て事業所はある。1階の部分にデイサービスセンターとドア1枚で隣接した1ユニットのグループホームがある。デイサービスセンターとは行事や消防訓練など協力して行ったり、イベントに参加するなど日常的に交流している。ホームは法人の理念を基に作成した「ここはあなたのお家ですよ」の事業所理念に沿い、家での生活と変わらぬ生活支援に努め、常に入居者の心に寄り添い「地域と共に生きる」の心を培いながら15年の歩みを進めている。平成31年1月より管理者をはじめ職員の入れ替わりがあり新体制となった。管理者はじめ職員は心一つにして入居者の心安らぐ居場所作りに努めている。保育園児や地域ボランティア、学生によるサービランニング、まつり等、地域行事を通じての交流も大切に継続している。法人総出で行われる「ふれ愛謝恩バザー」では、バザー出店の小物を作ったり、各種模擬店やゲーム、カラオケ等多彩な内容で地域の方々や家族と共に入居者は楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念 2374100523					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来「ここがあなたの家ですよ」という理念に基づき支援に努めている。朝の申し送り時に心得を唱和し、職員間で共有して仕事に取り組んでいる。	玄関に掲示された事業所理念「ここがあなたの家ですよ・・・」に基づき入居者の心に寄り添った支援に努めている。朝の申し送り時に理念を基に作成された「5つの心得」を職員全員で唱和してケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流会や地域行事(敬老会・公民館まつり)に参加、地域との関わりを持ち交流、またバザー開催、ボランティアの受け入れをしている。	町内会には加入はしていないが、地域住民や運営推進会議等で情報を得て、敬老会や公民館まつり、神社の祭りなどに参加したり、日々の散歩等を通して地域との関わりを持つようしている。保育園児との交流も年3回行い入居者と心を通わせている。地域ボランティアの受け入れを継続し交流を深めている。「ふれ愛謝恩バザー」では地域の方々の参加があり賑わいを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2374100523-00&ServiceCd=320&Type=search	施設見学会、東海市市民プラザ祭りには作品の展示を行い、地域の方に認知症の理解を深める様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント	2か月に一度会議を開催し、活動報告、利用者の状況報告を行うと共に出席者との意見交換や包括支援センターの職員から情報や指導、ご家族の意見をサービスの向上に活かし繋げる。	入居者や家族代表、地域住民、民生委員、地域包括センター職員等の参加を得て2か月に一回開催している。運営や活動報告、事故報告等を行い、出席者からは意見や要望を聞いている。その場で話し合ったり、職員会議で話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの方にも参加して頂き、市町村担当者に活動報告書を提出し指導を受けながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へは毎回包括支援センター職員が参加している。認定書類更新の代行業務や推進会議録の持参等で行政へ出向き担当者からアドバイスを受けたり情報交換に努めている。法令に関する変更事項等の指導を受けることもある。行政主催の研修や講演会等に参加し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様の理解を得て玄関を施錠している。ご家族様の理解を頂き支援に取り組んでいる。必要がなければ直ちに中止している。	身体拘束のマニュアルを基に、ミーティングなどで機会がある毎に拘束について話し合や勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議で拘束についての報告をしている。ホームの前に踏み切りや道路があるため安全を優先し、家族の理解を得て玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、定例ミーティングで話し合いを行っている。暴力によるものばかりではなく、言葉、介護拒否なども虐待になるので職員の質を高めつつ防止に努める。		

已 自部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人の権利を守る大切な制度なので、職員がしっかり理解出来るように勉強会や研修参加を託している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約、入所後の改正については、管理者が家族様とよく話し合い、理解をいただいている。今後、職員にも理解を深めて育てることが課題である。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面談、意見箱を設置することで要望、意見を取り入れている。外出のモーニングコーヒーを始め食事量の管理、好きな飲み物の準備、医療体制等、状態に合わせて改善している。	入所者からは日常ケアの中で希望や要望を聞いている。家族からは、面会時や家族会などの行事、運営推進会議などで意見や要望を聞き、申し送りノート等に記録をしてミーティングで話し合い運営に反映している。グループホーム便りで家族に安心を届けている。意見箱を設置している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場アンケートの実施、ミーティングでの意見交換を行うことで職員の意見や提案を受け入れやすい体制づくりに努めている。	管理者は職場アンケートを実施して、従業員個々の意見を引き出したり、個別面談を行い将来の目標や要望、提案を聞く機会を設けている。また、日々の申し送りや毎月のミーティング時に職員からの意見や提案が出しやすく話し合える環境作りに努め、事業所運営に反映させている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を理解し、勤務体制に反映している。それぞれに役割分担や委員会のメンバーとなり、やりがいのある職場作りに努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加補助制度があり、職員は外部研修、資格取得に努め、自己研鑽に繋げている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村の研修や市内グループホーム協議会に参加し、勉強会を行いサービスの向上に努めている。		

己 自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から離れる不安、知らない場所での生活に不安があるのでご本人に寄り添うことで安心に繋がるように努めている。「一人ではない、傍らには必ず誰かがいる。」事をお伝えしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族とよく話し合い、家族の思いを理解した上で利用者様へのサービスや支援作りに努めている。また、面会時にも情報交換を行い共有できる関係づくりをもてるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今何が必要となるか」常に心掛け、状況の共有を図り、スタッフ同士再確認し、朝の申し送り、ミーティングで話し合い対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ここがあなたの家ですよ」と思っていたできるように、共に生活する楽しさや、自分の役割を持つことで、自分の居場所作り、和やかな関係を築けるように努める。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を取り、共に問題点や要望を共有して一方的な支援にならないようによく話し合っている。利用者様の声や心を大切にしている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスでの知人との面会の機会もあり、関係が途切れないように努めている。2ヶ月に一度の散髪、また訪問マッサージ師との触れ合いも馴染みになっている。	入所者のこれまでの生活歴を把握したり、家族から情報を得て、本人が大切にしていた人や場所、物事の関係が継続できるように支援に努めている。併設のデイサービスで知人と会ったり、毎回訪れるボランティア、訪問マッサージ師の方々との触れ合いも馴染みとなっている。年賀状や電話の取次ぎ支援も行っている。墓参りや外出支援は家族の協力を得て支援をしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯干し、洗濯たたみ、食事作りなどの共同作業などで助け合う生活支援を行っているが、トラブルが起こることもある。職員が交わる事で、孤立しないよう関りが出来るよう努めている。		

已 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の永眠による対処の場合、関りが薄くなっていくが、必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一で向き合う時間を大切にしている。入浴時、夜勤帯では、入居者様より要望を受ける事が多く、しっかりと話を聞くことで、ご本人の不安を和らげるように努めている。	傾聴する姿勢を忘れず、一対一で向き合う時間を大切にしている。リラックスできる入浴時や夜間帯は入居者の意向や希望を把握できる事が多くあり、ゆっくりと話を聞き不安を和らげるように努めている。思いを上手く表出できない方には家族の協力を得たり、本人本位に検討してケアにつなげている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントを元にご家族からの情報や本人との会話の中から新しい情報を得て、サービス計画に取り入れている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リズムに寄り添って体調、心理状態の変化を観察している。強制する事なく、出来る事を本人の役割として過ごして頂いている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティング時にケアカンファレンスにて本人がやりたい事、やれる事、必要な事を見出し、また課題ケアの共有、意見交換を行い、ご家族の意向を交えながら介護計画を作成している。	月1回のケアカンファレンス時に問題や課題について情報交換を行い、3か月毎のモニタリングを経て6か月に1回介護計画の見直しを行っている。入居者担当を中心に、情報を整理し、家族や本人の意向を踏まえながら、医療関係者やケアマネジャー、介護リーダー等が話し合い現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に毎日の状況、変化など記録し申し送り時に伝達している。職員が共有と連携を保ちながら実践、見直しにつなげている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせて今何が必要なのか、ご家族様と連携を取りその時のニーズに合わせた支援に努めている。ボランティアの受け入れや、おやつ作り、お楽しみ昼食会、麺の日等を行っている。		

已 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう	ボランティア、保育園との交流や地域の行事にも参加している。馴染みの関係ができ、楽しみになっている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診体制(定期訪問診療月に2回)・24時間、365日の連絡体制や往診体制・連携する医療機関への情報提供や入院体制にて対応している。急変した場合は、家族が望む病院へ受診する事もある。	入居時に本人や家族からかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。内科による往診は月に2回ある。歯科や皮膚科等専門医やかかりつけ医への受診は家族の協力を得ているが、困難な時は通院支援をしている。24時間体制で提携医や協力医療機関と連携しており、速やかに適切な医療が受けられるように努めている。看護師による健康管理も行われている。受診結果は受診ノートに記録し、申し送りで周知しケアに活かしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や異常があれば、すぐに管理者に連絡を取り、また早めの対応にて提携医との指示を受ける。受診の必要があれば、その都度対応している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、退院時も医師、ご家族様と事業所で経過報告や退院後の支援について情報交換を行い、ご家族様が安心されるよう関係づくりに努めている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と連携を取り「できる事は何か」を考え、また、個別にご家族様の想いを聞き、今後チームで支援に取り組んでいく。	入居時に重度化した場合や終末期についての事業所の指針を明らかにし意向や希望を確認している。重度化する可能性があれば早い段階から家族と話し合い、状況説明をし再度意向を確認している。家族や医療関係者、職員等連携を取りながら事業所で「できる事は何か」を考え、チームを組んで支援にあたっている。介護計画を見直し、看取りについての勉強会を重ねながら最善の支援が出来るよう取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアル化して対応ができる体制を取っている。緊急を要する時は管理者、看護師の判断で医師の指示を受ける場合もある。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練(夜間想定火災訓練)を行っている。台風19号にての対応では水分、食料の確保を行った。	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を併設のデイサービスと合同で行い、訓練後の反省会では、入居者がより安全に避難できるよう話し合いを行っている。また、デイサービスで月2回の防災の話があり参加している。水や食料の備蓄品のチェックリストを作成し、非常持ち出し品と共に消費期限や数の確認をしている。地域との協力関係を築くまでには至っていない。	地震等の災害発生が懸念されている昨今、地域との協力関係は重要なことである。地域の防災訓練に参加して地域の防災状況を把握した上で事業所の役割を模索し、協力関係に発展させることを期待する。年1回は消防署の立会いを求め、専門的立場からのアドバイスを職員間で周知し災害時の入居者の安全に繋げることを期待する。

己 自部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声掛けを行なうことで、尊厳と親しみを持って対応しているが、安全を要する時「ダメ」「危ない」など一方的な言葉が出ることもあり、職員相互で注意し合っている。	人生の先輩としての気持ちを基本に、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。その人にあった声掛けや、「ここはあなたのうちですよ」の理念に沿った対応をすることで安心でき、心を開ける環境作りに努めている。安全を要する時の「ダメ」「危ない」など一方的な言葉やスピーチロック等、職員相互で注意し合いケアを行っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を聞き、自分で選べる関係づくり、強制的ではなく本人の意思の尊重に努める。一人ひとりとゆっくり向き合える時間をもてるようにしたいと思っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活のリズムの必要性を感じている事。職員は業務を優先することに捉われず、ゆとりある支援ができるようにした。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装も清潔にし、時々はおしゃれに興味を持たれるように、季節にあった服や靴を一緒に買いにでかけることもある。		
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみ昼食会、麺の日、おやつ作り等入居者様、スタッフと一緒に作る楽しみや配膳、片付け等を計画を立ててやっている。外食、喫茶も楽しんでいる。	クックチルドを取り入れており、メニューは業者委託となっている。入居者の希望を取り入れたり、粥や刻み食など食材の形態や食べられない食材の代替え食などに配慮している。入居者は職員と共に盛り付けや後片付け等を行っている。毎月のお楽しみ昼食会や麺の日、おやつ作り等入居者は職員と一緒に作るのを楽しみにしたり、外食ツアーや喫茶ツアーなども楽しみな行事となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クックチルドを取り入れている。業者による食材の為、栄養バランスは考慮され、食事形態(刻み食、お粥)に合わせた食事の提供、水分摂取量には特に気を付けている。食べられない献立には代替え提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け行うが、その人の生活習慣もあり拒否が見られ難しい面もある。一人ひとりに合わせたケアを対応している。夜間は義歯を預かりポリドント洗浄を行っている。		

已 自部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力を考慮し、定期誘導を行い不快なく過ごせるように支援している。声掛けやタイミングにも気配りを行い、トイレでの排泄に努めている。	座位で排泄をすることを大切にしている。排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握して、サインを見逃さないように、タイミングを外さないように声掛けを行っている。夜間も尿意を感じ自分で行く事を優先にし、見守り支援に努めている。便秘予防には食べ物や水分を多く摂ったり運動などで体調管理を行い、状況に応じて看護師や医師に相談し対応している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄による影響は大きい為、特に気をつけている。排泄チェック表での体調管理、水分補給をこまめに行っている。体調管理と調整剤内服で便秘を予防している方もいる。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴となっており、ゆっくりと時間をとっておしゃべりしながらリラックスできるように支援している。拒否がある時はコミュニケーションを図りながら楽しめるよう努めている。	基本的には一日おきの入浴となっており、ゆっくりゆったりと個々に合わせた入浴を支援している。入浴を拒む入居者には声掛けを工夫したり、タイミングを見計らったりしてコミュニケーションを取り、無理なく気持ちよく入浴ができるように努めている。湯の清潔や冬季のヒートショック予防にも配慮し季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯、希望者には入浴剤を使用することもある。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで自由に居室での休息ができるように支援している。気温の変化やリネン交換、環境整備を行い、安眠、休息できるようにしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診・受診による処方の変更は往診通院介助報告書だ随時行い、職員全体が理解し共有し服薬管理に注意をはらっている。(目的・用量の理解)		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割や手伝いをする事が、本人にとって、生活の中で喜び、自信に繋がるように支援している。共に生活しながら楽しみ事気分転換を図っていききたい。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は中々難しいが、敷地内にて日光浴を兼ねて外に出たり、近くの神社まで散歩するようにしている。年間行事だ花見、喫茶等を計画している。家族との墓参りなど、ご家族様の協力が大きな力となる。	日常的には日光浴を兼ねて敷地内を散策したり、時には近くの神社まで散歩に出かけ季節の移り変わりを楽しんでいる。年間行事として季節の花見やみかんがり、喫茶店等に出かけている。墓参りや馴染みの場所への外出は家族の協力を得ている。	

已 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい状態にあり、普段は立て替え払いをして後日ご家族様の了解をいただき職員と一緒に買い物に出かける事もある。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で電話をかけことは少ないが先方からの電話による対応が多い。また、家族、知人に年賀状を出すようにしている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全な環境に努めている。空気の流れ替え、外観の眺め、日差しにも気をつけている。室内には、花や観葉植物を置き、また壁画作りも行い季節感を出し、心地よく過ごせるよう努めている。	明るい食堂と居間はワンフロアになっており、入居者の動きや気配が一目で見渡せる様になっている。居間の周りに居室が配置されている。壁面には季節の飾りや行事の写真、習字などの作品が展示され、花や観葉植物が癒しを添えている。併設のデイサービスの行事が掲示され、参加する入居者の楽しみとなっている。温度や湿度、臭いや音、日差しにも配慮された清潔な居間で入居者はテレビを観たり談笑しながらゆったりと過ごしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、ソファを設置し自由に過ごせる環境を提供している。また、席替えを行い入居者同士の交流に努めている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた生活の場になるよう家具や仏壇など入居者の希望に沿い持ち込んでいただき希望通りに配置している。居室にもテレビがあり、好きな番組を楽しめる。	居室は使い慣れた家具や小物を持ち込み、写真や手作りの作品などを飾り、住み慣れた心地よい空間作りを工夫している。テレビや仏壇を置いている方もある。汚染されたものや危険なものがないかそれとなくチェックし、清潔で安全な本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに努め、本人が場所、居室に戸惑うことが無いよう、目印やカード等で分かりやすいように支援している。重度化により今後安全化が重要となる。		